

J R 奈良線の複線化について

【関係省庁】国土交通省

鉄道利用は、地球温暖化対策の観点からも見直されている中、JR奈良線は、二つの古都を結ぶ京都府南部(木津川右岸地域)の基幹鉄道であるとともに、近畿中部地域の鉄道ネットワークの一部を成す重要な鉄道であるが、複線化率は未だ24%であり、複線化整備の早期着手が課題となっています。

<京都府からの提言>

JR奈良線は、京都・奈良・大阪に及ぶ広域的な環状ネットワークの一部として、また、関西文化学術研究都市へのアクセスとして重要な路線であることから、近畿地方交通審議会答申にも位置付けられた複線化は、地域の発展にとって重要な社会資本整備である。

JR奈良線複線化整備については、交通の安全の確保・円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全等に直結するものであり、鉄軌道整備についても、本年度創設された下記の社会資本整備総合交付金の基幹事業に位置づけ、活用できるようにすること。

<参考>

社会資本整備総合交付金の概要

(目的) 地方公共団体が行う社会資本整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ることを目的とする

(交付対象事業)

- 基幹事業① 活力創出基盤整備 (道路、港湾)
- ② 水の安全、安心基盤整備 (河川、砂防等)
 - ③ 市街地整備 (都市公園、市街地、広域連携等)
 - ④ 地域住宅支援 (住宅、住環境整備)

【奈良線概要】

路線延長	34.7km
複線	8.2km(24%)
単線	26.5km(76%)

【JR奈良線の複線化効果】

朝ラッシュ時の所要時間の短縮

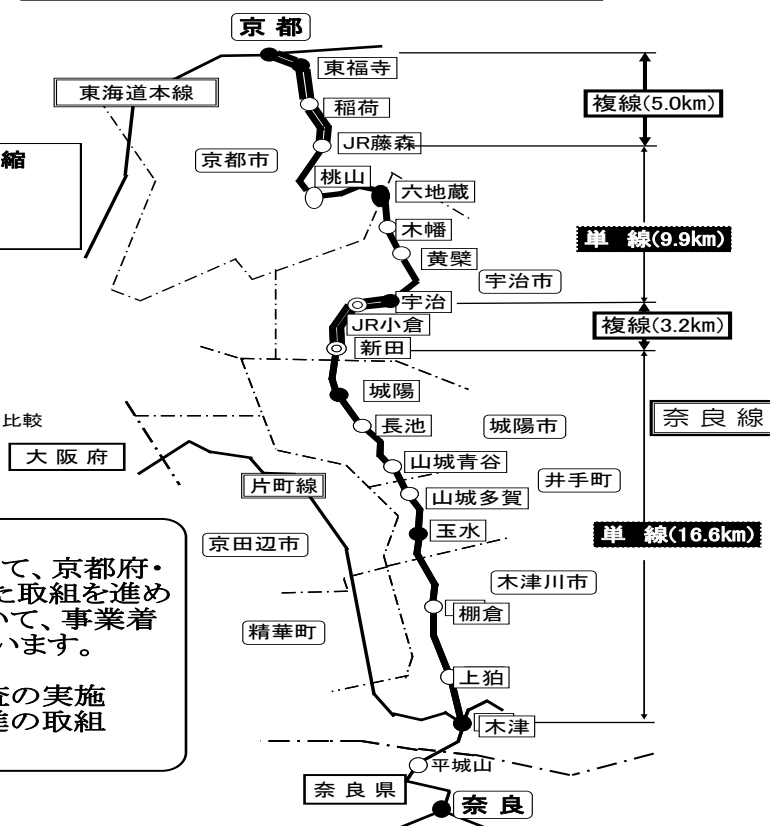
京都～木津
50分台 → 30分台

【過去のJR奈良線整備効果】

年度	12年度 複線化 整備前	13年度 一部複 線化後	20年度 直近状 況
乗車 人員 (人/日)	39,010 人	41,448 人 (106%)	50,019 人 (128%)

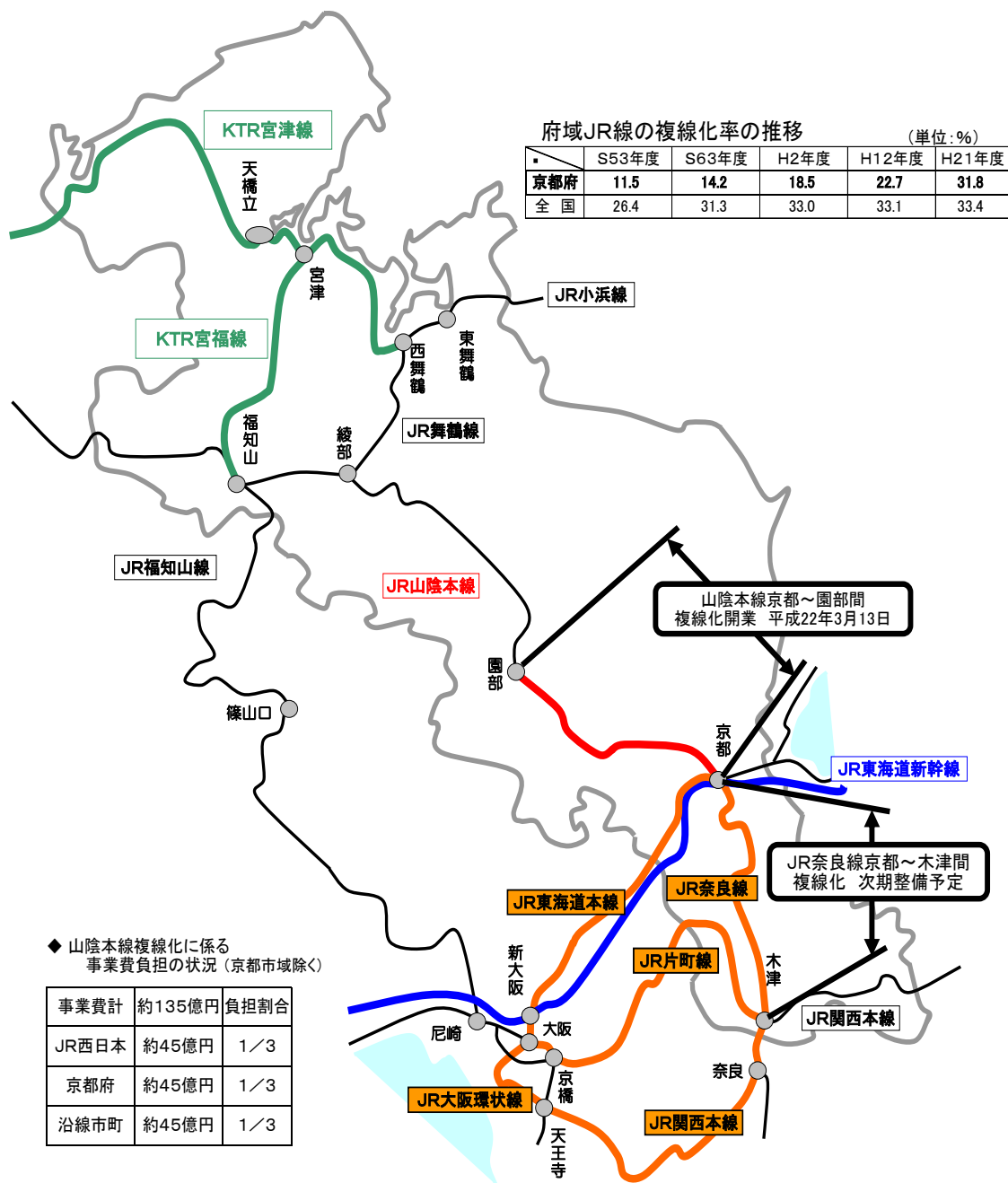
()は、12年度一部複線化整備前との比較

奈良線周辺路線図



奈良線複線化に向けて、京都府・沿線市町が一体となった取組を進めており、沿線地域において、事業者手への期待が高まっています。

- 京 都 府:各種調査の実施
- 沿線市町:利用促進の取組



【京都府の担当部局】

建設交通部

交通政策課

075-414-4360